

戦後日本の医療映画・ドラマに見られる 医者像の概観

王 敏東

台中科学技術大学 応用日本語学科

受付：平成24年8月1日／受理：平成24年11月14日

要旨：本稿は戦後の医療映画・ドラマ（全85点）の素材・内容，専門，そして主人公について年代別に検討した。医者像に迫るため，医者としての能力・腕，性格，そして劇の基本要素とされることの多い“恋愛”，という3つの観点からまとめた。映画・ドラマに見られる医者に共通する性質としては，まず（医学における専門的な）能力が優れていることがあげられる。また，腕が良く生真面目な医者にちょっとした弱みや癖を持たせることにより，劇にユーモアの要素を入れる傾向も観察できた。専門別に見れば，外科が最も多くて，次が法医，他に精神科，小児科，産婦人科，麻酔科，感染医，美容外科なども散見される。性別については，大多数のものが男性を主人公としており，女医を主人公とするものの数を大きく上回っている。最後に，彼らの多くは，ぬきんでた能力・腕を持っているという前述の特質から，周りの異性の憧れの対象にもなる。

キーワード：映画，ドラマ，主人公，医者像

1. はじめに

19世紀末に誕生した映画は，日本でも1896年にはじめて公開され，またたく間に広まって明治中期には代表的大衆娯楽の1つとなった¹⁾。日本の映画は実写や単純な舞台劇の記録から出発し，次第に文学作品が映画化されるようになると表現技術も向上し²⁾，そのうちに，社会教育や学校教材にも利用されるようになった³⁾。医療にかかわる映画としては，たとえば戦前の『小島の春』(1940)⁴⁾がある。戦後になると，井伏鱒二原作の『本日休診』(1952)，黒澤明監督の『赤ひげ』⁵⁾(1965)や何度も映像化されている『白い巨塔』(1965)をはじめ，近年では，『チーム・バチスタ』(2008, 2009)，『孤高のメス』(2010)，『神様のカルテ』(2011)など数多く見られる。また，医療ドラマも今や医療映画を上回る数である⁶⁾。

一方，Lajos Egriは1945年の『The Art of Dramatic Writing』で，役を劇において最も重要なものだと位置づけた⁷⁾。『The writer's journey: mythic

structure for writers』(Christopher Vogler (2007))の特徴的な意見の1つに，心理学者 Carl G. Jung の「原型 (archetype)」という概念を役作りに用いていることがあげられる⁸⁾。映画の魅力は物語以外に，スクリーンに躍る登場人物にもある⁹⁾。様々な役の中でも，いわゆる主人公¹⁰⁾が最も重要な存在であるのはいうまでもない。小説¹¹⁾であれば，「脈絡通轍」の機能¹²⁾を担わされた主人公は，物語が進んでいく過程でしょっちゅう読者の感情を投影されたり読者が自らを同化する対象となったりする¹³⁾。小説で見られるヒーローが読者の抑圧された夢を解き放つ手がかりになりうる¹⁴⁾のもそのためであろう。また，西洋にもたとえばルカーチ (1885～1971) のように個性豊かな「問題的な主人公」^{プロブレマティック}を社会構造と小説の内的形式を媒介するものと考えた見方がある¹⁵⁾。なお，ヒーローは劇において読者（または視聴者）に物語の世界を案内する役割を果たしている¹⁶⁾。それでは，医療映画やドラマに主人公の医者はどう描かれているだろうか。とくにこれらの医療映画・

ドラマに見られる医者像の変遷は、各時代の代表的なまたは理想の医者像を反映しているとも考えられる¹⁷⁾ので、彼らのイメージや特徴を見出すことは各時代の代表的なまたは理想の医者があるべき性質の究明にもつながる¹⁸⁾のではなからうか。

以上のことに基づき、本稿は戦後日本の医療映画・ドラマに見られる医者像の変遷を探ってみる。具体的にはまず戦後の医療映画・ドラマをあつめ、年代順に配列する。次は、医者像と関連する映画・ドラマの素材・内容、専門、そして主人公の特徴を年代別に見ていく。また、医者像に迫るため、医者としての能力・腕、性格、そして劇の基本要素とされることの多い“恋愛”¹⁹⁾、という3つの観点から検討する。

2. 戦後の医療映画・ドラマ

医療ドラマ (Medical drama) は医療環境を中心に展開するテレビドラマの一ジャンルと定義されることがある²⁰⁾。アメリカの『ER』、韓国版の『白い巨塔』、台湾の『ザ・ホスピタル』における日本での放送に医学監修や制作の面で協力した今井 (2010a, 2010b) は上記3点の外国作品の他、日本の『JIN—仁—』などにも触れながら、医療ものの映像作品に対する社会学的研究が遅れており、メディア論などのレベルで深めていかなければならないと訴えている。本稿は戦後日本の医療映画・ドラマに見られる医者像を探るため、医者主人公とする映画・ドラマに絞って検討することにした。管見の限り、戦後から2012年6月現在までの、日本におけるそのような映画・ドラマには表1のようなものがある²¹⁾。

表1 戦後日本の医療映画・ドラマおよび主要人物 (年代順)

番号	年	作品名	形	他の形のもの	主要な人物													
					人名	専科別 (または主な 仕事場)	性別	能力・腕	性格 (や特徴, 癖)	恋愛	致命的な 病気などの 危機							
(1)	1952	本日休診	映画	小説	八春先生			男										
(2)	1958～ 1961	雑草の歌	ドラマ															
(3)	1961	背徳のメス	ドラマ	小説	植秀人	産婦人科	男	優		昼間は(金儲けや出世に走らない) 誠実な医者だが、夜は女癖が悪い。								
(4)	1964	ハイ! 次の方	ドラマ			精神病院	女											
(5)	1965	赤いひげ	映画	小説	新出去定		男	優	やや乱暴だが、心が優しい。									
	1973		ドラマ				男		新出に感動し、エリートコースをあきらめ、“医は仁術”と思うようになった。									
	2002																	
(6)	1966 1978	白い巨塔	映画	小説	財前五郎	外科	男	優	学生時代から猛勉強する努力家であるが、自惚れたところがある。	見た目がよく、妻以外に愛人もいる。	あり							
			1990 2003										里見脩二	内科	男	優	学究肌の医学者である。	賢妻を持ちながら、教授の令嬢にも好かれている。
													東貞蔵	外科	男	優	旧時代の権威のある教授で、抜群の腕を持つ部下財前のことに深い嫉妬を持っている。	虚栄心が強い妻を持っている。
(7)	1967	おやじさん	ドラマ				男											

表1 続き

番号	年	作品名	形	他の形のもの	主要な人物						
					人名	専科別 (または主な 仕事場)	性別	能力・腕	性格 (や特徴, 癖)	恋愛	致命的な 病気などの 危機
(8)	1967	あゝ君が愛	映画	小説	丹羽繁夫	外科	男	優		美貌の看護婦との恋愛物語である。	
	1969		ドラマ								
(9)	1969	孤独のメス	ドラマ			外科	男		良心的である。		
(10)	1972	ありがとう (看護婦編)	ドラマ		十虎之介	小児科	男		ストレートな性格である。	看護婦の新が好きで、結婚した。	
(11)	1973	白い影	ドラマ	小説	直江庸介	外科	男	優	無愛想のように見えるが、最期まで全うした強さを持っている。	女性関係が派手なようである。最初は直江を非難していた看護婦の倫子と惹かれあっている。	あり
	2001										
	2003	特別編			[志村倫子] ²²⁾	[看護婦]	女				
(12)	1974	雪舞い	ドラマ	小説	野津修平	外科	男	優			
(13)	1974	冬の陽	ドラマ	小説		外科	男				
(14)	1976	白い秘密	ドラマ			外科	男				
(15)	1976～ 1980	三男三女婿一匹	ドラマ		桂						
(16)	1979	陽はまた昇る	ドラマ			外科	男		良心的である。		
(17)	1979	おだいじに	ドラマ			内科	女			夫に死なれた。	
(18)	1981	野々村病院物語	ドラマ		野々村隆之	外科	男	優	人柄がいい。	妻に死なれた。	
	1982	野々村病院物語II									
(19)	1986	海と毒薬	映画	小説	勝呂二郎 (研修医)	外科	男	優	素朴な性質であるが、生体解剖に参加させられた。戦後人目を忍ぶようにひっそりと生きている。		
(20)	1986	いのち	ドラマ		高原未希		女				
(21)	1986	京都かるがも病院	ドラマ		加茂俊英	外科	男				
(22)	1986～ 2007	監察医室生亜季子	ドラマ	内科医・ 後兼監察医	室生亜季子	監察医	女			夫の不審死をきっかけに監察医を兼務するようになった。	
(23)	1990	外科医有森冴子	ドラマ	小説	有森冴子	外科	女	優	真面目で、人間味溢れる。	最初は独身だったが、IIで長い間恋心を抱いてきた内科医と結婚した。	
	1991	外科医有森冴子スペシャル' 91秋									
	1992	外科医有森冴子II									
	2000	新春スペシャル									
	2000	外科医有森冴子2「告知」									
(24)	1990	ぼくが医者をやめた理由	ドラマ	私小説風の エッセイ			男				
(25)	1991	助教授一色麗子 法医学教室の女	ドラマ		一色麗子	法医 (監察医)	女		明るくて前向きである。		
(26)	1991	外科病棟・女医の事件ファイル	ドラマ		鮎川朝子	外科					
(27)	1992	往診ドクター事件カルテ	ドラマ		加納裕基	刑務所医官退職した後、診療所で仕事をしている。	男				
(28)	1992	法医学教室の事件ファイル	ドラマ		二宮早紀	法医	女	優			
	1993	第2シリーズ									
	1994～ 2012	新・法医学教室の事件ファイル									
(29)	1992	さよならをもう一度	ドラマ				男			過去の恋人と病院で再会した。	

表1 続き

番号	年	作品名	形	他の形のもの	主要な人物						
					人名	専科別 (または主な 仕事場)	性別	能力・ 腕	性格 (や特徴, 癖)	恋愛	致命的な 病気などの 危機
(30)	1993	ホテルドクター	ドラマ		力丸良平	ホテル ドクター	男				
(31)	1993	振り返れば奴がいる	ドラマ		司馬江太郎	外科	男	優	傲岸不遜である。		あり
					石川玄	外科	男	優	誠意ある治療を 目指す医者である。		あり
					大槻沢子	麻酔科	女			司馬と付き合っ ていた。	
(32)	1994	麻酔	ドラマ	小説	野中静	麻酔科	男				
(33)	1994	白の条件	ドラマ	漫画	野田華子 (研修医)		女				
(34)	1994	妊娠ですよ	ドラマ		桐原大輔	産婦人科	男		正義感が強い。	妻子と幸せに暮 らしている。	
(35)	1995	外科医・終又三郎	ドラマ		終又三郎	外科	男	優	大学を捨てたため 肩書きがない。飄々とした 性格。	亡き妻をずっと 思っているが、 だんだん島津が 好きになった。 恋愛に疎い。	
					島津涼子	外科	女	優			
(36)	1996	元気をあげる ～救命救急医物語～	ドラマ			(救命救急)					
(37)	1996	愛の産科	ドラマ		小森真知子	産婦人科	女				
(38)	1996	小児病棟・命の季節	ドラマ			小児外科					
(39)	1997	研修医なな子	ドラマ	漫画	なな子 (研修医)	外科	女		失敗も多いが、 いろいろ勉強・ 体験して成長し ていく。		
(40)	1997	心療内科医・涼子	ドラマ		涼子	心療内科	女		熱血医師である。		
(41)	1998	外科医・夏目三四郎	ドラマ		夏目三四郎	外科	男	優	天真爛漫である。		
(42)	1999	救命病棟 24時間	ドラマ		進藤一生	外科医 (救命救急 センター)	男	優	無愛想だが、患 者に精一杯向き 合う。	妻を亡くした。	
					小島楓 (研修医)	救命救急 センター	女		情熱である。		
	2001	第2シリーズ		進藤一生	外科医 (救命救急 センター)	男					
	2002	新春スペシャル		香坂たまき	心臓外科	女		利己的だったが、 進藤との出 会いで医師としての 自覚が芽生 えた。			
	2005	スペシャル		進藤一生	外科医 (救命救急 センター)	男					
	2005	第3シリーズ									
	2009	第4シリーズ		小島楓	救命救急 センター	女					
2010	スペシャル										
(43)	1999	女医			宮木有希	外科	女			自分の担当の患 者が好きになっ た。	
(44)	2001	マリア	ドラマ		坂本宇宙		女		熱心で優しい。		
(45)	2001	ハンドク!!!	ドラマ		狭間一番 (研修医)		男		トラブルメー カーだが、医療 に対して強い信 念を持っている。 熱き心の研 修医である。		
(46)	2002	パベル	ドラマ		羽村恭一		男	優	地下組織のクロ ン人間である。		

表1 続き

番号	年	作品名	形	他の形のもの	主要な人物						
					人名	専科別 (または主な 仕事場)	性別	能力・腕	性格 (や特徴, 癖)	恋愛	致命的な 病気などの 危機
(47)	2002	ナイトホスピタル ～病気は眠らない～	ドラマ		森沢麻紀	病理医	女				
(48)	2002	サイコドクター	ドラマ	漫画	楳恭介	(個人経営の) 精神科	男	優	エリート医師 コースを歩んできたが、自分の 考えで献身的に 治療し続けている。		
(49)	2002	真夜中の雨	ドラマ		都合隆	外科	男	優	組織に縛られる ことが嫌で、野 望がある天才外 科医である。		
(50)	2003	Dr. コトー診療所	ドラマ	漫画	五島健助	外科	男	優	温和で真面目だ が、“医者の不 養生”の所がある。 しかし、医師と しては天才的 で、精神的なケ アも行なう。	島に来る前に付 き合った人がい た。島に来た当 初は看護婦彩佳 を医療上のよい パートナーとし てしか意識して いなかったが、 いつの間にか大 事な人へと変わ り、プロポーズ までした。	
	2004	特別編 (Dr. コトー 診療所 特別編)									
2004	スペシャル (Dr. コ トー診療所 2004)										
2006	第2シリーズ (Dr. コトー診療所 2006)										
					[星野彩佳]	[看護婦]	女		怒りっぽくて、 気が強い。	五島のことが好 きで、家事など いろいろな面で 支えてあげてい るが、五島のプ ロポーズを受け なかった。	あり
(51)	2003	ブラックジャックに よろしく	ドラマ		斉藤英二郎 (研修医)		男		純粹である。		
					【出久根邦弥】 ²⁾ (研修医)		男				
(52)	2004	女医・優 ～青空クリニック～	ドラマ	漫画	藤井優	内科	女	優			
(53)	2004	ママは女医さん	ドラマ				女		真面目である。		
(54)	2005	(伊良部シリーズ) イン・ザ・プール	映画	小説	伊良部一郎	精神科 (心療内科)	男		天真爛漫で自己 中心である。		
	2005	(伊良部シリーズ2) 空中ブランコ	ドラマ								
	2011	(伊良部シリーズ3) Dr. 伊良部一郎									
(55)	2006	小早川伸木の恋	ドラマ	漫画	小早川伸木	外科	男		自分に誠実に生 きようとしている。	嫉妬深い妻を持 ちながら、精神 的に癒してくれ る別の女性にど こか惹かれている。	
(56)	2006	医龍	ドラマ	漫画	朝田龍太郎	(心臓)外科	男	優	医局の権威を無 視する天才外科 医である。患者 には真摯である。 甘い菓子を好む。 (部屋などの)整 理が下手である。		
	2007	医龍 2									
2010	医龍 3										
					[里原ミキ]	[看護師]	女	優		朝田に恋心を持 っており、親 密な仲である。	あり (亡くなった)
(57)	2007	きらきら研修医	ドラマ	ブログ『研修医 うさこのどたば た奮闘記』が 『きらきら研修 医』という単行 本に	織田おさこ (研修医)		女		真面目である。		

表1 続き

番号	年	作品名	形	他の形のもの	主要な人物						
					人名	専科別 (または主な 仕事場)	性別	能力・ 腕	性格 (や特徴, 癖)	恋愛	致命的な 病気などの 危機
(58)	2008	Around 40～注文の多いオンナたち～	ドラマ		緒方聡子	精神科医	女	優			
(59)	2008	バンドラ	ドラマ		鈴木秀樹	内科	男	優			
	2010	バンドラII									
	2011	バンドラIII									
(60)	2008	感染爆発～パンデミック・フルー	ドラマ		田嶋哲夫		男				
(61)	2008	チーム・バチスタの栄光	映画	小説	田口公子	神経内科 不定愁訴外来	女		純粹で優しい。脳病に見えるが、繊細で鋭い。		
					[桐生恭一]	[厚生労働省の者]	男		口も性格も悪いが、鋭い。		
	2008		ドラマ		田口公平	神経内科 不定愁訴外来	男		純粹で優しい。脳病に見えるが、繊細で鋭い。		
					[桐生恭一]	[厚生労働省の者]	男		口も性格も悪いが、鋭い。		
	2009	チーム・バチスタ2	映画								
	2010	ジェネラル・ルージュの凱旋	ドラマ								
2011	チーム・バチスタ3 アリアドネの弾丸	ドラマ									
(62)	2008	コード・ブルー -ドクターヘリ緊急救命-	ドラマ		藍沢耕作 (フェロドクター)	救急救命センター	男	優	医者としての経験や腕を積むのに積極的で、性格としては冷静である。		
					白石恵 (フェロドクター)	救急救命センター	女		温和で医療知識が豊富な優等生タイプである。		
	2010	第2シリーズ		[藤川一男]	救急救命センター	男		調子者で明るい。			
(63)	2008	小児救命	ドラマ		青山宇宙	小児科	女		熱い志を持っている。		
(64)	2008	風のガーデン	ドラマ	小説	白鳥貞美	麻酔科	男	優	陽気である。	女性関係が派手である。自らの不倫が原因で妻が自殺した。	あり
(65)	2008	Tomorrow ～陽はまたのぼる～	ドラマ		森山航平	外科	男	優	礼儀正しくて、性格がいい。		
(66)	2009	ゴッドハンド輝	ドラマ	漫画	真東輝	外科	男	優	どじだが、直向きである。		
(67)	2009	感染列島	映画	漫画	松岡剛	救急救命医	男				恋人同士だった。
					小林栄子	WHOメディカルオフィサー	女				
(68)	2009	ギネ産婦人科の女たち	ドラマ	小説	終奈智	産婦人科	女	優	無口で冷たく見えるが、患者を助けることに焦点を置きすぎである。	離婚して1人で子育てしている。	
(69)	2009	JIN一仁一	ドラマ	漫画	南方仁	脳外科	男	優	聡明で責任感がある。	現実の世界に婚約者がいたが、タイムスリップした先で出会った咲にも関心を持っている。一方、現実世界の婚約者とそっくりの遊女にも好かれている。	
	2011	第2シリーズ			[橋咲]	[看護婦]	女	優		命の恩人の仁に興味を持っている。	

表1 続き

番号	年	作品名	形	他の形のもの	主要な人物						
					人名	専科別 (または主な 仕事場)	性別	能力・腕	性格 (や特徴, 癖)	恋愛	致命的な 病気などの 危機
(70)	2010	GM～踊れドクター	ドラマ		後藤英雄	総合診療科	男	優	診療以外のことにほとんど常識がない。潔癖症である。本当はアイドルになりたい。		
(71)	2010	FACE MAKER	ドラマ		霧島瞬	美容整形外科 ²⁴⁾		優	冷静で厳しい。		
(72)	2010	孤高のメス	映画	漫画	当麻鉄彦	外科	男	優			
(73)	2010	外科医 須磨久善	ドラマ	ドキュメンタリー	須磨久善	外科	男	優			
(74)	2010	桂ちづる診察日録	ドラマ	小説	桂千鶴	外科・内科	女				
(75)	2011	最上の命医	ドラマ	漫画	西條命	小児科	男	優			
(76)	2011	マドンナ・ブルデ ～娘のために産むこと～	ドラマ	小説	曾根崎理恵	産婦人科	女		冷静で理知的である。		
(77)	2011	ブルドクター	ドラマ		大達珠実	法医	女	優			
					[釜津田知佳]	[刑事]	女				あり
(78)	2011	ジーン・ワルツ	映画	小説	曾根崎理恵	産婦人科	女	優	冷静である。	同僚の准教授と男女の関係が何度かある。	
(79)	2011	神様のカルテ	映画	小説	栗原一止	内科	男	優			
(80)	2011	DOCTORS ～最強の名医～	ドラマ		相良浩介	外科	男	優		妻を亡くした。亡き妻をずっと思っている。	あり
					森山卓	外科	男	優	傲慢である。		
(81)	2011	悪女たちのメス	ドラマ	小説	松山冬実	脳外科	女	優	冷酷である。		
					[中原永遠子]	[医療コーディネーター]	女				
(82)	2012	聖なる怪物たち	ドラマ	小説	司馬健吾	外科	男		使命感と正義感に富んでいる純粋な新人外科医である。	自らアプローチしてきた看護師と交際している。	
(83)	2012	37歳で医者になった僕 ～研修医純情物語～	ドラマ	『研修医純情物語～先生と叫ばないで～』と『ふり返るなドクター～研修医純情物語～』	紺野祐太	内科 研修医	男		正直で真剣である。	医者になったきっかけは恋人だった。	
(84)	2012	梅ちゃん先生	ドラマ		下村梅子	研修医 (内科医を目指している)	女		明るくて世話好きの頑張りやである。		
(85)	2012	クレオパトラな女たち	ドラマ		岸峯太郎	形成外科	男	優	クールである。	女性が全く“分からなかった”が、いつの間にか年上の女医(市井睦)に引かれるようになった。	
					市井睦	形成外科	女	優	患者に対する態度が懇切である。	夫、義母との関係がうまく行かず、その悩みを岸に打ち明けたことがきっかけで互いに相手のことが好きになった。	

上記表1にあげた映画・ドラマは全部で85本である。戦後しばらくはさほど数が多くないが、1990年以降は毎年数本見られるようになり、総体的にかなりの量となっている。これは日本の高齢化に伴い、医療主題の映画・ドラマに対する社会の関心が高まっていることを裏付ける結果であろう²⁵⁾。

以下、医者像と深くかかわっている、映画・ドラマの素材・内容、専門、そして主人公について、小節に分けて検討する。

2.1. 映画・ドラマの素材・内容

まず、映画・ドラマ全体の内容・雰囲気であるが、1990年以前にはたとえば、『赤ひげ』(1965)や『海と毒薬』(1986)などのような、真面目で堅苦しい文学作品を原典としたものが主流だった。それは時期的にまだ、戦前とつながっており、戦争によって残された苦悶の翳が作用していると考えられよう²⁶⁾。

そのような中、1990年代後半より、雰囲気の違いが現れるようになった。たとえば『研修医なな子』(1997)は若い女性研修医が描かれたものだが、漫画が原典のためか、やや誇張された役が登場し、ドラマの随所に喜劇めいた印象を与えるシーンもあった²⁷⁾。また、放送後医療現場で働く医師などによる抗議²⁸⁾が来た『心療内科医・涼子』(1997)も、『研修医なな子』(1997)と同じ年のものだった。なお、監察医(または法医)を主人公とするドラマが現われ²⁹⁾、しかも数多く作られるようになってきているのもこの時期である。このようなことから、1990年代は医療ドラマの可能性が大きく広がった時期だと分かる。

今世紀になってからは、『Dr. コトー診療所』(2003)や『女医・優～青空クリニック～』(2004)のように辺鄙な離島で頑張っている医者のお話が見られ、日本医療における医者分布の不均衡が反映されている。さらに、現代の医師が江戸幕府の末期にタイムスリップした『JIN—仁—』(2009)、ドクターヘリの養成をテーマとした『コード・ブルー—ドクターヘリ緊急救命—』(2008)、パンデミックをテーマとした『感染爆発～パンデミック・フルー』(2008)『感染列島』(2009)や、代理母の『マドンナ・ヴェルデ～娘のために産むこと～』(2011)³⁰⁾、美容整形クリニックを舞台とした『クレオパトラな女たち』(2012)など、ここ数年ますますバラエティに富んだ作品が見られるようになっており、医療映画・ドラマの素材が今世紀以降豊かになった様子がうかがえる。

一方、医者を主人公とするが、ストーリーの内容としては男女間の愛に重きが置かれているもの、たとえば『あゝ君が愛』(1967, 1969)、『さよならをもう一度』(1992)、『小早川伸木の恋』(2006)、『Around 40～注文の多いオンナたち～』(2008)のようなものが、各時期に見られる。

また、医療ものという性格上、“医療”の専門知識の扱いは気になる所である。その一方で、厳しい医療問題を主題とした映画・ドラマに、ユーモアの要素を入れて、違う角度から医療の実情を映し出す、という手法も見られた。よって、以下“専門知識”と“ユーモア”という2つの要素について述べていく。

①専門知識の要素

①専門知識の要素

森(1998: 556)によれば、アメリカでは『シカゴホープ』や『ER 救急救命室』のようなドラマで救急医療の現場での死亡率が高すぎて一般人に誤解を与える、という報告がNew England Journal of Medicineで報告されているという³¹⁾。医療映画・ドラマにおいて医学的な正確さが求められるようになってきていることの現われであろう。日本では、たとえば本文の冒頭に触れた、戦前の『小島の春』(1940)は、女医のハンセン病患者の取り扱いについて描いたものであり文学作品もしくは映像化された映画としては高く評価されていた³²⁾が、医学的な面においては、木下柰太郎(医師としては太田正雄)や木下(1997)による批判があった³³⁾。

戦後の『本日休診』(1952)は作者本人が、「医学上の熟語の使ひかたや治療の描写なども、専門の医者から見れば間違つてゐるところがあるだらう」というように、医学的に正しいかどうかについての不安を示している³⁴⁾。

享保時代の養生所を舞台にした『赤ひげ』(1965)の原典『赤ひげ診療譚』(1958)は厳密な調査をもとに書かれた作品で³⁵⁾、連載中にある医学部名誉教授によって記述が正確だという賛称の手紙が来たという³⁶⁾。

『白い巨塔』(1966)も「医学や裁判の専門的知識に関する調査も克明この上なく」とされている³⁷⁾。

それに対して、『おだいじに』(1979)では病院事務長が白衣で食事するシーンの非常識を指摘した投書があり³⁸⁾、『いのち』(1986)では女医が患者にメガネを(眼科医でなく)メガネ屋さんに作ってもらったら、と勧めたことに対し日本眼科医学会他の抗議があった³⁹⁾。また、『心療内科医・涼子』(1997)は心療内科の現場で働く医師による抗議が相次いだ⁴⁰⁾ばかりでなく、医学者による真剣な調査・報告による是正も学会で発表されている⁴¹⁾。

一方、医者による作品であれば、このような問題は起こりにくい。近年、『チーム・バチスタ』(2008, 2009)、『ギネ 産婦人科の女たち』(2009)、『外科医 須磨久善』(2010)、『孤高のメス』(2010)、『神様のカルテ』(2011)、『37歳で医者になった僕～研修医純情物語～』(2012)などのように、医者が書いた原作に基づいた映画・ドラマが数多く出ている。代表的なのは渡辺純一の小説を原作とするもので、『白い影』⁴²⁾(1973)、『雪舞い』(1974)、『冬の陽』⁴³⁾(1974)、『麻酔』(1994)など数多く見られる。医者が書いたエッセイをドラマにした『ぼくが医者をやめた理由』(1990年)のような作品もある。また、映像化するに当たり、医者による専門の指導が取り入れられているものも多い⁴⁴⁾。

②ユーモアの要素

命にかかわる医療活動は神聖で厳粛な仕事である。それをテーマとする映画・ドラマも真面目な作りのものが多くて、そこに登場する主人公の医者も、その多くがしっかりした性格の持ち主である。しかし、劇的な効果を考えると、説教調のものが必ずしも受け入れやすいとは限らない。まして、医者も人間だし、人間にある喜怒哀楽の感情

も持っているし、場合によってはリラックスしている姿を見せることも欠かせない。このような劇的な面とヒューマンな面との双方の点から、映画・ドラマ(またはそこに登場した医者)にユーモアの要素が挟み込まれることが観察できる。

『本日休診』(1952)は作品名と内容とが正反対となっている⁴⁵⁾こと自体に一種のユーモア性が潜んでいる。また、主役ではないが、『コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命一』(1952)の藤川一男⁴⁶⁾や『ブラックジャックによろしく』(2008)の出久根邦弥⁴⁷⁾はドラマの中で周囲を笑わせる役どころであり、ドラマ全体の雰囲気を柔らかくする役目をも負わされている⁴⁸⁾。また、主人公にしても、『チーム・バチスタ』(2008など)の田口、『GM～踊れドクター』(2010)の後藤、『孤高のメス』(2010)の当麻、『DOCTORS～最強の名医～』(2011)の相良、『神様のカルテ』(2011)の栗原などに見られるちょっとした弱みや癖⁴⁹⁾は、御茶目で可愛らしく、欠点どころか、むしろ人間としての純粹さやチャーミングな性質にもつながる⁵⁰⁾。なお、『きらきら研修医』(2007)、『Around 40～注文の多いオンナたち～』(2008)の主人公である女医にはおっちょこちょいなどところがあり、『ブルドクター』(2011)における、法医学助教授の大達と刑事の釜津田との衝突(または会話)、『クレオパトラな女たち』(2012)で岸峯太郎が女性ばかりに囲まれて紅一点ならぬ白一点となっている様子も時々笑いの種となる。

2.2. 専門

専門別に見れば、外科が最も多くて、次が法医、他に精神科、小児科、産婦人科、麻酔科、美容外科などが散見される。外科と法医が多いのは劇としてのインパクトが大きいからだと考えられる⁵¹⁾。そのためでもあろうか、この2つの科を舞台とする映画・ドラマは1980年代後期以降、どの年代にも見られた。それに対して、麻酔科、小児科などを専門とする主人公の登場は比較的最近のことである。また、小児科や産婦人科を専門とする主人公たちは、近年社会問題を提起することもある⁵²⁾。

2.3. 主人公

主人公の多くは男性で、女医を扱ったものの数を大きく上回る。なお、研修医を主人公とするものも、少数ではあるが見られる。いずれの年代においても、男性医師、女性医師、研修医、の各々を主人公とする映画・ドラマが見られた。

3. 能力、性格、恋愛から見る医者像

医者进行评估する場合、専門職である以上、まずその能力が問われるだろう。また、医学専門知識や能力だけでなく、性格もいい医者になる重要な鍵の1つである。なお、恋愛もまた、人間においても劇においても一大事である。以下は以上の3点から、映画・ドラマで見られる医者の特徴を見出したい。

3.1. 医者としての能力・腕

映画・ドラマで見られた主人公の医者は、一人前の医者になる前の研修医⁵³⁾を除くほとんどが確かな腕を持っており、その多くは天才的ですからあり、専門分野における第一人者のような存在である。たとえば自信満々の財前五郎(『白い巨塔』(1966))をはじめ、『赤ひげ』(1965)の新出去定、『白い影』(1973)の直江庸介、『振り返れば奴がいる』(1993)における司馬と石川、『Dr. コトー診療所』(2003)の五島、『医龍』(2006)の朝田龍太郎⁵⁴⁾、『GM～踊れドクター』(2010)の後藤、『孤高のメス』(2010)の当麻、『最上の命医』(2011)の西條、『DOCTORS～最強の名医～』(2011)の相良、そして女医の松山(『悪女たちのメス』(2011))、曾根崎(『ジーン・ワルツ』(2011))など、性格、価値観はともかく、抜きん出た能力を有している。このような役を映画・ドラマにおいて設定する場合には、外科が一番その能力を発揮しやすいと思われ、実際、短時間内的に手術を行ない、患者を助けるシーンがしばしば披露されている。また、臨床で華麗な腕を振るうという見せ場の作りにくい内科の里見脩二(『白い巨塔』(1966))や栗原一止(『神様のカルテ』(2011))は、学究派で根気強い性格(里見)や大学病院での勤務を勧められること(栗原)などで、優秀だとい

う性質を表現する。基本的に外来を扱わない法医学者⁵⁵⁾については、機敏で鋭く、何かの事件を解決するキーパーソンとなっている。つまり、直接患者に治療を施さなくても、賢くて医者としての(専門)能力が高いことが分かる仕組みになっている。

このようなことから、医療映画・ドラマにおいては、主人公が医者としての素晴らしい能力・腕を持っていることが1つのベースになっていると言えよう。これは、主人公を卓越非凡の人物にして、読者の注意をこの人の性質に引き付ける⁵⁶⁾という小説における古来のルールに由来しているのであろう。つまり、喜劇でない限り、無能で器用でない医者主人公とする物語には誰も興味を感じないだろうし、視聴者を引き付けるような魅力はまずないと考えられたものであろう⁵⁷⁾。

3.2. 性格

前節(3.1. 医者としての能力・腕)で医療映画・ドラマにおける主人公の基本的な素質——優れた能力・腕を見受けた。本節では医療映画・ドラマの主人公となった医者の性格を見てみたい。

全体的に、医療(や社会)における不合理に不満を持ち、ヒーロー的で“正義の味方”である主人公は、男性が多いせいか、真正面から力強く戦う姿勢が印象的である。『赤ひげ』(1965)の去定、『医龍』(2006)の朝田、『37歳で医者になった僕～研修医純情物語～』(2012)の紺野はそのような類である。一方、同じく不合理な医療状況に簡単に頭を下げず、真剣に向き合うが、態度としてさほどストレートでない里見(『白い巨塔』(1966))、相良(『DOCTORS～最強の名医～』(2011))、栗原(『神様のカルテ』(2011))などのタイプも見られる。また、前者のタイプは外科医、後者は内科医が多いように思われる。なお、研修医の主人公の多くをも含め、芯が強いのもこれらの医者の性格の特徴の1つである。

3.3. 恋愛

前述したように、映画・ドラマで見られる主人公の医者は飛び抜けた能力・腕の持ち主が多い。

そのような立派な医者は、まるで当たり前のように、周りの異性の憧れの相手にもなる。『白い巨塔』(1966)の財前はお金持ちの開業医のお嬢さんの妻を持ちながら、水商売のケイ子という愛人とも愛し合っている。同じ作品の里見は賢妻の他、東教授の令嬢にも思われている。また、『白い影』(1973)の直江、『最上の命医』(2011)の西條、『JIN 一仁一』(2009)の仁、『孤高のメス』(2010)の当麻や『DOCTORS～最強の名医～』(2011)の相良などもそれぞれ女性主人公(看護婦や女医)の憧れの対象になっている。

また、女医にしてもたとえば『Around 40～注文の多いオンナたち～』(2008)の主人公は、いわゆる適齢期をすぎても結婚はしていないが、格好よくて好きになってくれる人がいないわけではない⁵⁸⁾。

なお、とくにもてるわけでもないが、相手に暖かく支えてもらっている主人公もいる。『妊娠ですよ』(1994)、『外科医 須磨久善』(2010)、『神様のカルテ』(2011)、『ブルドクター』(2011)のように夫婦愛に溢れているものはもちろんのこと、『振り返れば奴がいる』(1993)の司馬にも理解してくれている大槻沢子がいる。

もちろん、恋心に目覚めていても好きな相手と結ばれるとは限らない。『Dr. コトー診療所』(2003)における五郎にはもともと“特別に大切な人”⁵⁹⁾がいた。しかし島に来た五郎と、全く違うコースを歩んだ彼女とが共に歩むことはなかった。島に来た五郎は島の看護婦の星野彩佳にも関心を寄せられているが、プロポーズしたら断られた。『小早川伸木の恋』(2006)における小早川伸木は、自分を癒してくれる妻以外の女性に惹かれていたが、一緒になれなかった。『感染列島』(2009)の松岡は、もとの彼女と、最悪の伝染病蔓延時に再会し、縋りを戻しそうな雰囲気になっていたが、彼女を先に死なせて、苦しんだ。

しかし、異性の思いに鈍感な主人公もいる。たとえば『Dr. コトー診療所』(2003)の五郎がそうである。この女性の好意に鈍感という性質は『外科医・柘又三郎』(1995)の柘又三郎、『孤高のメス』(2010)の当麻などにも見られた。

とにかく、通常人間は“愛”(さらに“性”)が人生の一部を占めている。ある程度の年になったら、恋が訪れ、結婚もする⁶⁰⁾。医者として相当な腕をもち、能力が認められているのであれば、結婚しているのが“普通”のようだ。したがって、医療映画・ドラマで見られる主人公はほとんど例外なく、婚姻状態(または恋愛)について触れられている。“いい役”だったら、妻(または夫)に一筋、“悪い役”なら、愛人がいるか複数の異性と関係している、という設定が多いようである。しかし、腕・能力の優れた“いい役”の男性主人公が妻以外の若くてきれいな女性主人公と一緒にいる上で、妻は不都合な存在となる。そのような問題を解消するためか、『外科医・柘又三郎』(1995)の柘又三郎、『救命病棟24時』(1999)の進藤、『DOCTORS～最強の名医～』(2011)の相良は妻を死なせており、若くてきれいな女性主人公と、微妙な関係にある⁶¹⁾。

一方、医療にかかわる深刻な諸問題にあまりに専念しすぎたせいか、主人公が異性の好意に鈍いという特徴も観察できた。たとえば、『Dr. コトー診療所』(2003)の五郎も『クレオパトラな女たち』(2012)の岸もそれぞれ女性主人公の、自分への好意から来る無愛想を理解できない時があった。また、『孤高のメス』(2010)における当麻が、自分がお見合いの張本人だと気付かなかったのも異性に無頓着であることの印である。この異性の思慕に鈍感な性質は、前節(②ユーモアの要素)で触れた、主人公を魅力的に見せるちょっとした弱みや癖と同様、かえって主人公の魅力を増す役割を果たしていると思われる⁶²⁾。

3.4. その他

前記3.1.～3.3.で論じた3つの面の他、主人公の価値観、モットー、趣味や尊敬する人なども医者像と関連すると考えられる⁶³⁾。とくに「人の死に死なんとするや、其の言うこと善し」と言われるように、医者主人公自身が致命的な病気などに襲われる場合、医者としての究極的なものが見えてくるのではないかと⁶⁴⁾。たとえば、『白い巨塔』(1966)で財前は不治の病に冒され、同級生

かつ生涯のライバルでもある里見に見てもらい、もと教授の東に執刀してもらった。しかし、もう手遅れだった⁶⁵⁾。また、『白い影』(1973)の直江は癌に侵されても延命治療を望まず、最後は愛した女を残してあの世に行った。「死ぬのが怖くない人間なんていない」⁶⁶⁾と認めた直江は「今怖いのは自分の体のことじゃない。愛する人から笑顔が、僕の前で笑顔が消えることが一番怖いんです。」⁶⁷⁾という。『風のガーデン』(2008)の白鳥は自分の不倫により家族と縁を切ったが、末期癌にかかったのを知り、故郷に戻り、家族に安らぎを求めた⁶⁸⁾。『感染列島』(2009)の栄子は理想または団体のために命を捧げた。このような、亡くなるという設定の主人公に対して、『DOCTORS～最強の名医～』(2011)の相良も難しい病気を患ったが、相良のことを妬んでいた森山に手術してもらい、助かった。これで、相良も森山も新しい人生を歩むようになっていく。

4. まとめ

戦後日本の医学を題材とした映画・ドラマを分析したところ、時代とともに変化するものとしないうものが見られた。その変化が始まったのは基本的には1990年代であり、映画・ドラマの主題・内容や主人公の性質(専門や性格)などのほとんどが、この時期から変化している。それに対して、男女間の愛を描く比率の大きいものは、時代を問わず各時期に見られた。また、医者における(医学における専門的な)腕・能力が優れていることが医者像に共通する性質であることも分かった。このような有能さを劇中で発揮しやすいのは何といっても外科医であり、外科医を主人公とする医療映画・ドラマが全ての時期に見られることも、主人公としての医者に能力が求められることの裏付けと考えられる。

謝辞

本稿の作成に当たり、文学のご専門である(台湾)銘傳大学応用日本語学科の王佑心先生よりご高見を賜り、文学関係の文献までご紹介いただいた。また、資料の収集に関して、銘傳大学応用日

本語学科修士課程の蔡玉琳氏にご協力をいただいた。最後に、審査の段階で査読者に多大なるご教示をいただいた。この場を借りて上記の方々へ厚く御礼申しあげる。

注

- 1) 田中(『国史大辞典』)。
- 2) 登川(『日本大百科全書』)。
- 3) 田中(『国史大辞典』)。医療にかかわる映画・ドラマが教育の一環として利用された例としては、西洋では1970年代よりのアメリカのいくつかの医学センター(MEDICAL CENTER)で、研修医における精神医学の教育に系統的に用いられているという(葉(1999))。台湾では前記葉(1999)の他、たとえば高雄医学大学や何(2004)、王(2010)なども映画を医学部における教育に導入している。何(2004)はさらに社会医学を教授した経験から、最も学生に好まれる教材が映画だと述べている。日本でもたとえば笠井(2007)、林・上野(2009)など、映画を教材にする試みが数多く見られる。
- 4) 女医が書いたエッセイ(記録)が原型である。
- 5) 山本周五郎の『赤ひげ診療譚』(1958)をもとにした。
- 6) 詳細は表1を参照。また、近年の医療ドラマについてたとえば『読売新聞』では2009.8.27「医療ドラマに臨場感 本物志向の制作、医師らが全般に関与」、2010.11.26「医療ドラマ 医師が“メス” 厳しい現実伝える 病気道具にしないで」などの記事が見られる。なお、マーシャル・マクルーハンの『メディア論』(1964; 1987年に日本語訳; 2006年に中国語訳)では、高精細度(high definition)の映画を熱いメディア、低精細度(low definition)のテレビを冷たいメディア、とされているが、本稿ではとくに映画かドラマを区別しない。
- 7) Christopher Vogler (2007: 3)。
- 8) 耿(2010: 4)。
- 9) Christopher Vogler (2007: 3)。
- 10) 逍遙が述べている主人公とは「小説中の眼目となる人物」で、「或は之を本尊と命づくるも可なり。……小説を読むに当りては、其後回の脚色の如何を問ふよりは、寧ろまづ主公の性質に注意するを常とする者なり。……読者の注意を促すべき卓越非凡の本尊を設置こと必要なり。さはとて才色兼備にして且善良なる人物を常に主人公となすを要せず。若しただ読者を感動して非常の注意を促すべき非凡の資格を有したらむには、醜悪奸邪の人物といへども得て主人公となすべきなり。」(柳田(1987: 272, 276, 277))。ただし、主人公の認定についてはどうも決まりはないらしく、たとえば、『赤ひげ診療譚』は「筋の上の主役は、赤ひ

- げと登で「物語の内容上の主役たちは、養成所にあられる病んだ庶民がひきずっているあれこれの人生である」という見方もある(山田(1989:146)). 本稿では言葉として主に「主人公」を用い、とくに「主役」「主要(な)人物」「ヒーロー」などと区別せず、具体的な認定は表1の通りである。
- 11) 上記医療映画を含む医療映画・ドラマの多くは、原作としての小説、もしくは後に小説化したものが存在する。詳細は表1を参照。
 - 12) 日本の近代小説について、はじめてまとまった理論書(『小説神髓』)を書いた坪内逍遙が最も重視したのは「主人公」の機能で、つまり物語の〈はじめ〉から〈終り〉にかけて、ある一定の方向性で脈絡をつけ、一貫した流れをもたせる機能だという(石原他(1991:42)).
 - 13) Christopher Vogler(2007:90)でも同様の記述が見られる。
 - 14) 前田(1988:104). また、Christopher Vogler(2007:30)でも同様のことが述べられている。
 - 15) 石原他(1991:46).
 - 16) Christopher Vogler(2007:30).
 - 17) たとえば梅谷(2003:142)は『白い巨塔』について「医師の一つの理想像として描かれる里見……」と述べている。
 - 18) または、各時代の背景や特徴はこれらの医者に投影されており、彼らのイメージや特徴を見出すことは各時代の医療環境を反映しているとも考えられよう。
 - 19) たとえば『日本大百科全書』「恋愛小説」に「小説のなかには、男女間の愛情の問題がいっさい介入しない作品もあるが、大部分は、洋の東西を問わず、広い意味での恋愛を重要なテーマとしている。」とある。
 - 20) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8C%BB%E7%99%82%E3%83%89%E3%83%A9%E3%83%9E> (2012.6.13).
 - 21) 参考文献にリストアップした資料の他、インターネットを利用して、各映画、ドラマのホームページなどをあつめて整理した。何度も映像化されたものやシリーズ化されているものは斜め文字で示す。また、『ディア・ドクター』(2009)のように主人公が本当の医者でない作品、『1リットルの涙』のように病気を中心としたもの、『ヴォイス～命なき者の声～』(2009)のような(医者でなく)医学生、あるいは歯医者、獣医、看護婦を主役とする映画・ドラマは本稿の検討範囲外とする。また、『白い巨塔』のような何度も映像化され、最新に映像化されたのと原作と、時間とかなり離れたなどの理由で、異なる内容の作品もあるが、映画・ドラマと紙による小説、漫画(または文字による小説、絵による漫画)とは表現する手法や重点が違ったりすることがあるので、本稿はテーマで示したように専ら戦後日本の医療映画・ドラマに見られる医者像を概観するものとし、医療漫画については上(2010)を参照された。
 - 22) 映画・ドラマでは医者でない主役を[]内に入れて提示する。
 - 23) 主役ではないものの本文で触れた役を表1で【 】内に入れて提示する。
 - 24) 顔面の美容手術といった領域を扱うのは医療法で定められた診療科名のうち「美容外科」もしくは「形成外科」であり、法的に「美容整形外科」という診療科名はないという(加藤(2010)); また、電子政府の総合窓口 法令データ提供システム(<http://law.e-go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>)の法令用語検索を利用したら、「美容整形外科」では何もヒットしなかった。)。
 - 25) 日本における高齢化をテーマとした文学作品や映画には、たとえば娯楽伝説をもとにした、第1回中央公論新人賞受賞作『檀山節考』および同名の映画(1958年と1983年)があげられる。『読売新聞』にも1888年5月24日「片輪女」という独身女性の高齢化に関する社説が見られた。『日本百科大事典』によると、統計的には日本ではじめて65歳以上の人口比率が7%に達した1970年前後が日本の高齢化の始まりだとされている。「その後、1979年に高齢者人口1000万人高齢化率8.9%、1998年(平成10)に同2000万人で同16.2%、2010年(平成22)同2900万人で同23.1%となるなど、人口高齢化は急速に進み、「年間60～90万人という急速な高齢者人口の増加は1990年代から始まった」(『日本百科大事典』)。このような高齢化社会の進展により医療需要が増大し、老人福祉などの対策が課題となる。医療漫画の急増も90年代以後のことで、それも日本国民の医療に対する意識の変化によるものだとされている(上(2010), 2010.8.5『読売新聞』「リアル医療漫画が人気 東京朝刊」など)。
 - 26) たとえ表面的にはそのような苦痛とは無縁に見えるものであっても、たとえば『本日休診』(1952)では長い軍隊生活の悪夢に取り付かれた勇作の発作が見られ、ミステリー形で演繹している『背徳のメス』(1961)も戦争に由来する不幸の要素が入っている(奥野(1980), 陳(1987)など)。
 - 27) また、主人公がまだ医学生のため、表1には入れなかったが、1997年の『輝く季節の中で』(1997)のような、いわゆるトレンドードラマに近い、美男美女の組合せの若者たちが頑張っているドラマもこの時期見られる。
 - 28) たとえば1997.12.9『読売新聞』「行き過ぎた? TVドラマ「心療内科医・涼子」に医師や患者らが抗議」の「医師側の言い分は「扱う病名が精神科のもの」と混同されている」「他人の病名を教えたり、実名を挙げて患者の症状を話し合うなどプライバシーが守られていない」など、患者からも「治療が続けるのが不安」「周囲から誤解されそう」など戸惑いの声が上がっている」がある。
 - 29) 1986年の『監察医室生亜季子』がはじめてである。

- 30) 他に『ジーン・ワルツ』(2011), 『聖なる怪物たち』(2012)も代理母のことに触れている。
- 31) Diem SJ (1996) のことだと考えられる。また、今井 (2010a: 369) も Diem SJ (1996) に触れており、さらに Bear NA (1996) や Markert RJ (1996) などのような後続の論争も提示している。
- 32) たとえば1940.12.20『読売新聞』「非常時文化変遷を観る [1] 日本映画の動向」で「商業主義を無視した秀作」とされている。1941年に当時「映画界最高の名誉である文部大臣賞」を受賞した(1941.3.21『読売新聞』「映画・英盤大臣賞決る」)。
- 33) 木下 (1997: 58-64)。
- 34) 「作者の言葉 [「本日休診」]」(『井伏鱒二全集第十四巻』)。
- 35) 中田 (1985: 316, 317)。
- 36) 木村 (1982: 144, 145) による解説。
- 37) 1965.9.2『読売新聞』「山崎豊子著「白い巨塔」医学会の醜い裏面 構成力ゆたかな問題小説」。
- 38) 1979.12.27『読売新聞』「白衣で食事とは……」。
- 39) 1986.8.31『読売新聞』「「いのち」のセルフで眼科眼科医会など抗議文」。
- 40) 1997.12.9『読売新聞』「[「間奏曲」行き過ぎた? TVドラマ「心療内科医・涼子」に医師や患者らが抗議, 森 (1998), Entertainment Rescue の会 (2004) など」。
- 41) たとえば、長年心身医学系心理学者並びにヘルスコーディネーターの立場から、心療内科が「誰にでも親しまれる」ものとなることを目指す健康教育を展開すべきだ、と提唱している響 (1998) は、『心療内科医・涼子』の第1~7回を視聴した男女148名を対象にした調査における「精神(医)との違いがよく分からない」(78%), 「何が専門なのかはっきりしない」(69%) といった結果から、心療内科的アイデンティティ再考の必要性を痛感したという。また、今井 (2010b) は、Diem (1996) の論を、医療者には社会の期待に対する責任があり、不正確な状況に対しては正してゆく責任があるというように要約し、医療者は心していなければならないと賛成の姿勢を示している。
- 42) 原作は『無影燈』である。
- 43) 原作は『ダブル・ハート』である。
- 44) 『冬の陽』(1974)は慈恵医大病院の医師が医事監修を担当している(1975.11.23『読売新聞』「本邦初公演心臓移植」)。『外科医有森牙子』(2000)における手術シーンには日赤医大の医師が立ち会い(Entertainment Rescue の会編 (2004: 27))。『小児病棟・命の季節』(1996)は医師の指導を受けた(1996.8.14『読売新聞』「[スタジオ発] 三浦友和 白衣姿、すっかり板につく」)。他にもたとえば、日本医科大学付属病院の布施明氏を含む数人の医師たちが『救命病棟24時間』(2001)の指導をしている(2001.7.13『読売新聞』「[番宣通信] 医療現場の緊張、リアルにフジテレビ広報部・大貫伊都子さん」, 2009.8.27「医療ドラマに臨場感 本物志向の制作, 医師らが全般に関与」), 大和成和病院の南淵明宏院長や北里大医学部の堤邦彦講師が『ブラックジャックによろしく』(2003)にかかわっている(2010.11.10『読売新聞』「医療ドラマ 医師が「診断」 現実に即した作品 高く評価」, 2003.6.5『読売新聞』「TBS系ドラマ「ブラックジャックによろしく」 医療現場をリアルに再現」), 順天堂大学医学部の天野篤教授が『チーム・バチスタ』(2008), 『医龍』(2006)の監修に携わっている(2012.2.13『産経ニュース』「実績ナンバーワンのスペシャリスト」順天堂大の天野篤教授 天皇陛下の手術」), 順天堂大学医学部の医療チームが『孤高のメス』(2010)の監修に協力している(<http://www.kokouno-mes.com/>), 慶應大学医学部血液医学部の森毅彦医師が『感染列島』(2009)の医療監修を担当している、といった具合である。このような現象について、堤邦彦・北里大医学部講師は「医療ドラマは視聴者の目が肥えており、本物に近くないと見てもらえない」と指摘している(2003.6.5『読売新聞』「TBS系ドラマ「ブラックジャックによろしく」 医療現場をリアルに再現」)。
- 45) 「本日休診」のつもりでいた主人公の医師が、何件かの突発的な事件のせいで、結局一日医療活動に従事してしまったという物語である。
- 46) 明るくてお調子者の性格を有している人物である。
- 47) 5浪してやっと医大に入って、主人公の斉藤英一郎と同期となった人物である。
- 48) Christopher Vogler (2007: 77) における滑稽な「三枚目」の原型に相当する。心理的な機能以外に、楽しい片時を織り込むという劇における働きも有している(Christopher Vogler (2007: 78))。我々(ヒーローまたはヒーローに自分を投影している読者・視聴者)が己を恃むあまり頑張りすぎている時、この滑稽な「三枚目」が適時に出てきて、必要な観点を新たに取り戻すわけである(Christopher Vogler (2007: 77))。
- 49) 温厚で、血が苦手で、内科の万年講師である田口はよく周囲に馬鹿にされており、辛辣な桐生とは対照的になっている。後藤英雄は医学のセンスが抜群だが、ダンスだけに熱中しており、さらにその潔癖症や世の中の事情に疎いことから視聴者を笑わせる効果を与える。当麻は手術の時、(都はるみの)演歌を聞くのが好きだという同じチームのスタッフにもちょっと馴染めない趣味がある。相良は甘いものに目が無い。栗原は夏目漱石が好きで、やや変なしゃべり方をしている。このような役はCarl G. Jungの「原型 (archetype)」に含まれている(Christopher Vogler (2007: 23))。
- 50) より現実の人間に近くするため、ヒーローは単一の性質のみでなく、欠点を持つ、という劇のルールがあるという(Christopher Vogler (2007: 30))。ヒーロー

- という原型はたとえば滑稽な「三枚目」の原型と融合したりすることがある (Christopher Vogler (2007: 33)). しかも、興味深い欠点は人間らしさの色あいが濃い。そこに読者 (または視聴者) 自身の影が見えるからである (Christopher Vogler (2007: 33)).
- 51) また、上 (2010) にも「内科における薬物療法と比較して、外科手術は、読者に医療現場を強く想起させることができます。このため、多くの漫画家は医療漫画のテーマとして外科医を選択したのでしょう。」という同様の意見がある。
- 52) たとえば『マドンナ・ヴェルデへ娘のために産むこと〜』における代理母 (の倫理) の問題、『ギネ 産婦人科の女たち』での女医の育児の困難さ、『最上の命医』の小児科が“儲けにならずリスクばかり高い” (副院長の考え <http://www.tv-tokyo.co.jp/meii/story/index.html> (2012.6.13)) ことへの反発などである。
- 53) 映画・ドラマで見られた研修医は、まだ研修段階ということで、青臭くて、立派な医者になるため、失敗しつつも、頑張っていく熱い若者が多い。
- 54) 個人でなくチームを重視する最近の医療においても、朝田龍太郎はチーム中のスターと位置されている。
- 55) たとえば『法医学教室の事件ファイル』(1992) の二宮早紀、『ブルドクター』(2011) の大達珠実などがあげられる。
- 56) 『小説神髓』下巻「小説の主人公にして非凡異常の人物なりせば、読者のおづから之を敬慕し、其将来の成行きをも十分得知らまく望むは常なり。故に脚色を巧妙に物する事の外に、読者の注意を促すべき卓越非凡の本尊を設置こと必要なり」(柳田 (1987: 276-278)). また、石原他 (1991: 44) にも「神話では主人公は他の人間や環境よりも質的に決定的に優れている」とある。
- 57) たとえば Christopher Vogler (2007: 30) に、ヒーローには何か人に好かれる特徴が必要だと提示されている。
- 58) たとえばカメラマンであるものと彼や年下の臨床心理士などがいる。
- 59) 第8話の台詞から、東京にいた時の彼女で、エリート的女医 (原沢咲) であることが分かる。
- 60) 腕・能力がまだ一人前とは言い難い研修医の役は独身の設定が多いようである。
- 61) また、『JIN 一仁〜』(2009) における仁の婚約者も似たような設定である。また、別の言い方で言えば、財前 (『白い巨塔』(1966)) の妻の強い虚栄心、小早川伸木 (『小早川伸木の恋』(2006)) の妻の病的に近い嫉妬心は、重大な欠点で、主人公が別の女性を求めることを“正当化する”理由にもなる。
- 62) ただし、これらの欠点や鈍臭さは必ず「能力・腕」を前提とするようだ。でないと、“主人公”という身分とは釣り合わなくなるからであろう。

- 63) Christopher Vogler (2007 三版: 47) における「指導者」に相当するだろう。
- 64) たとえば Christopher Vogler (2007 三版: 32) に死亡との戦いは全ての物語の主題だと述べられている。
- 65) この上なく優れた能力を持っている財前は、あまりにも傲慢 (hubris) であったため、罰 (Nemesis) を受けた、という Christopher Vogler (2007 三版: 77) の「悲劇的な欠陥」型のヒーローに当たる。
- 66) 第7話。
- 67) 第10話。
- 68) このようなヒーローは Christopher Vogler (2007 三版: 222) で指摘されているように「辛い思いをしたが、賢くもなった」。

参考文献

英語

- Egri L. The art of dramatic writing, New York: Simon & Schuster, 1945
- Marshall M. Understanding media the extensions of man, Cambridge: The MIT Press, 1994
- Baer NA. Cardiopulmonary resuscitation on television? Exaggerations and accusations, N Engl J Med 1996; 334: 1604-1605.
- Diem SJ, Lantos JD, Tulsy JA. Cardiopulmonary resuscitation on television — Miracles and misinformation. N Engl J Med 1996; 334: 1577-1582.
- Markert RJ, Saklayen MG. Cardiopulmonary resuscitation on television. N Engl J Med 1996; 335: 1605-1607.
- Vogler C. The writer's journey: mythic structure for writers, 3rd ed. Studio City: Michael Wiese Productions, 2007 (tr. 蔡鵬如. 作家之路: 從英雄的旅程學習說一個好故事, 2010)

日本語

- 猪俣勝人. 日本映画名作全史一戦後篇一. 東京: 社会思想社; 1974
- 黒岩重吾; 奥野健男解説. 背徳のメス. 東京: 角川書店; 1980 (三十四版)
- 山田宗睦著; 木村久邇典解説; 吉田精一監修. 近代作家研究叢書 73 山本周五郎 宿命と人間の絆. 東京: 日本図書センター; 1982
- 山本周五郎; 中田耕治解説. 赤ひげ診療譚. 東京: 新潮社; 1985 (四十四刷改版)
- マーシャル マクルーハン著; 栗原裕・河本仲聖訳. メディア論. 東京: みすず書房; 1987
- 柳田泉. 「小説神髓」研究. 東京: 日本図書センター; 1987
- 前田愛. 文学テキスト入門. 東京: 筑摩書房; 1988
- 石原千秋・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋修・高橋世織. 読むための理論—文学・思想・批判. 横浜:

- 世織書房；1991
- 衛藤賢史. 小説と映画における『海と毒薬』. 別府大学紀要 1991；32: 44-55
- 木下昌明. 病気もの映画の落とし穴—『小島の春』. スクリーンの日本人—日本映画の社会学. 東京：影書房；1997. p.51-64
- 井伏鱒二. 井伏鱒二全集 第十四巻. 東京：筑摩書房；1998
- 岩本憲児. 写真・絵画集成 日本映画の歴史①②③. 東京：日本図書センター；1998
- 森孝宏. 11. 地方からみた『心療内科医・涼子』の功罪(第81回日本心身医学会関東地方会演題抄録). 心身医 1998；38(6): 556
- 響玲於那. IHH-4心身医学をベースにしたウェルネス・ムーブメントへの歩み(7): TVドラマ「心療内科医・涼子」問題によって問われる心療内科(心神医学)のアイデンティティ再考とその展開案(精神疾患). 心身医 1998；38(suplement II): 162
- 梅谷薫. 小説で読む 生老病死. 東京：医学書院；2003
- Entertainment Rescueの会編. 医学ドラマ完全ガイド. 東京：主婦之友社；2004
- 笠井哲. 「医療倫理」から見た『白い巨塔』の意義について. 福島工業高等専門学校研究紀要 2007. 48: 61-69
- 林智一・上野徳美. 医療・臨床心理学教育における映画教材活用の試み—映画を用いた授業実践とその教育効果の実証的検討. 大分大学高等教育開発センター紀要 2009. 1: 1-11
- 王敏東. 台湾の大学における第二外国語としての専門別日本語教育—医学日本語を出発点として—. 台湾日本研究 2010. 4: 133-161
- 渡部幹夫. テレビドラマの中の病院(後編)米国ドラマ『ER』と韓国版『白い巨塔』・台湾ドラマ『ザ・ホスピタル』. 病院 2010a. 69(5): 368-371
- 渡部幹夫. テレビドラマの中の病院(後編)米国ドラマ『ER』と韓国版『白い巨塔』・台湾ドラマ『ザ・ホスピタル』. 病院 2010b. 69(6): 460-463
- 上昌広. 医療と漫画の関係を考える. 医療ガバナンス学会 メールマガジン 2010. 217
<http://medg.jp/mt/2010/06/vol-217.html> (2012.6.13)
- 加藤信岳. ドラマ「FACE MAKER」に思う. 2010
<http://www.jcoa.gr.jp/siten/content/2010/facemaker.html>
- 「実績ナンバーワンのスペシャリスト」順天堂大の天野篤教授 天皇陛下の手術. 産経ニュース 2012.2.13
<http://sankei.jp.msn.com/life/news/120213/imp12021309020001-n1.htm>
- 田中純一郎. 映画. 国史大辞典
<http://www.jkn21.com/body/display/> (2012.5.27)
- 登川直樹. 映画. 日本大百科全書
<http://www.jkn21.com/body/display/> (2012.5.27)
- 高橋重郷. 高齢化社会. 日本大百科全書
<http://www.jkn21.com/body/display/> (2012.10.14)
- 平岡篤頼. 恋愛小説. 日本大百科全書
<http://www.jkn21.com/body/display/> (2012.6.23)
- 電子政府の総合窓口 法令データ提供システム
<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi> (2012.6.23)
- ヨミダス歴史館(『読売新聞』)
<http://www.yomiuri.co.jp/rekishikan/>
- 中国語
- 陳恒嘉. 關於『背德的手術刀』及其作者. 黑岩重吾著；陳恒嘉訳. 背德的手術刀. 台北：志文出版；1987. p. 1-7
- 葉炳強. 電影与医学教育. 医学教育 1999；3(3): 279-289
- 何明蓉. 応用電影媒体從事社会医学教育. 医学教育 2004；8(1): 31-38
- McLuhan, Marshall 著；鄭明萱訳. 認識媒体 人的延伸. 台北：貓頭鷹出版；2006
- 耿一偉. 導読 邁向作家的旅程. 克里斯多夫・佛格勒(Christopher Vogler)著；蔡鵬如訳. 作家之路：好萊塢電影人口袋裡的英雄原型. 台北：開啓文化；2010. p. 3-8
- 王敏東・詹徳全. 由《孤高的手術刀》概観日本近年器官移植的發展. 当代医学 2011；38(11): 875-881

Overview of Images of Doctors in Japanese Medical Movies and Teleplays after World War II

WANG Ming-tung

Department of Japanese Studies, National Taichung University of Science and Technology

This paper discussed the contents, specialties, and actors and actresses in 85 medical movies and teleplays in chronological manner. The images of doctors therein were explored with regard to the capability, personality and romance of doctors. The common features of doctors in most medical movies and teleplays were their superior medical capability. Additionally, small idiosyncrasies were added to the characters of those skilled doctors for adding an element of humor to the show. The largest number of specialties shown was Surgery, then followed by Forensic medicine, with minimal examples of Psychiatry, Pediatrics, Obstetrics and Gynecology, Anesthesiology and Aesthetic Plastic Surgery. Most medical movies and teleplays focused on male doctors, rather than female doctors. Those male doctors were commonly regarded as idols by the ladies around them.

Key words: movie, teleplay, hero, image of doctor